

現在、解剖学を学ぶ学生は、増えている。学生でなくても「人体の仕組みを知りたい」という思いを持つ人は、潜在的に多く存在する。私は、さまざまな職種をめざす学生だけでなく、既に臨床などで活躍している人々に対しても解剖学の講義を行ってきた。あらゆる医療のコアとなる解剖学を、学生や臨床家たちにどのように教えるのか、これが常々私の課題となっていた。

本書の著者である坂井建雄先生（順大大学院教授）は、解剖学に深い造詣を持つ一流の研究者であり、解剖学実習を担当する教員でもある。また、「どのように解剖学を伝えるか？」ということに関しても熱心で、学会などでご意見をうかがったりしていた。その坂井先生がどのように本書をまとめられたのか、ぜひ知りたいと思って本書を手にとった。

まず、美しいイラストと読みやすい文章で、とても見やすい教科書だと感じた。次に、本書の構成に驚きを覚えた。系統解剖学としての講義内容が、「解剖学総論」として最初にまとめられており、その後、胸部、腹部、骨盤部、背部、上肢、下肢、頭部、頸部、中枢神経が、部位ごとに記載されている。この構成は、臨床家や学生にとって、非常に有益である。なぜなら、臨床で何か困ったことがあったときに知りたいのは、“そこ”がどうなっているのか、だからである。そのとき、部位ごとに記載がまとまっている本書は、知りたいことを探しやすい。これは、解剖学実習を担当している坂井先生だから可能であったのではないと思う。すなわち、解剖学実習

を行っていて生じる疑問も、局所的なものが多いからだ。だからといって全てが局所解剖学的か、と言うとそうではない。最初にしっかりと系統解剖学としてまとめてあるだけでなく、他部位とのつながりも記載されている。

要所要所にある「Developmental Scope」「Functional Scope」「Clinical Scope」は、対象となる構造を学習するに当たって興味を引くだけでなく、その知識が他分野へと有機的につながる仕組みになっている。

また、動脈の起始・走行・分布、末梢神経の由来・脊髄分節・支配する筋・皮膚への分布、骨格筋の起始・停止・神経支配・作用が表としてまとまっている。この表は、学生の理解を大いに助ける。なぜなら、このような表は、今まで学生自身が教科書を読んでノートなどに作っていた（私を含めて）ものだからである。

本書は、“解剖学を勉強したい、知りたい”と思っている全ての人にお薦めできる教科書である。学生から臨床家まで、初学者から教員まで、医師・歯科医師からコメディカル、その他の職種の人々まで、お薦めできる。このような広くお薦めできる本は、めったになかった。

もし私が学生の時に本書があったら、もっと効率よく、しかも深く解剖学を学べただろう。今、本書で勉強できる学生は幸せだと思う。

（B5・頁 662 2017 年 定価：本体 9,000 円＋税 [ISBN978-4-260-02473-0] 医学書院刊）

お知らせ

第 18 回日本臨床リハビリテーション心理研究会

テーマ：障害をもつ子どもと家族の理解と支援

開催日時：2017 年 11 月 19 日（日）10：00～15：50

会場：千葉県千葉リハビリテーションセンター・大ホール（千葉県千葉市緑区誉田町 1-45-2）

プログラム：基調講演（演者：横浜リハビリテーションクリニック院長 日原信彦）、シンポジウム「関連職種からの問題提起と実践報告」（演者：調整中）、事例検討（グループワークと全体討論）

参加費：医師・歯科医師：6,000 円、その他：3,000 円

参加申し込み：ホームページよりお申し込みください。

URL：<https://rehabilpsychology.jimdo.com/>

主催：日本臨床リハビリテーション心理研究会

代表世話人・事務局：渡辺俊之（東海大学大学院／健康科学部）

当番世話人：古谷房枝（千葉県千葉リハビリテーションセンター看護局看護部）